

加藤製作所

令和4年度（公社）建設荷役車両安全技術協会

適用範囲		モデル名		HD514MRLC-7		
		仕様				
		適用号機		5102～		
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値		
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度				
		ハイアイドルング	min <sup>-1</sup>	2000±20		
		ローアイドルング	min <sup>-1</sup>	900±20		
		(冷却水温)	(°C)	(75～85)		
	(作動油温)	(°C)	(50±10)			
弁すき間	吸気弁 隙間		mm	0.15		
		排気弁 隙間	mm	0.15		
		(測定条件)	(°C)	(冷間)		
圧縮圧力又は気筒間圧縮圧力差	(エンジン油温)		MPa	3.04		
			kg/cm <sup>2</sup>	31		
			(°C)	(暖気後)		
(回転速度)			(rpm)	(200)		
		燃料装置	噴射ノズルの燃料噴射開始圧力	MPa		
			kg/cm <sup>2</sup>	コモンレール		
冷却装置	ファン駆動ベルトの張り		mm	6.6～7.4		
		[測定位置・条件]	(kg)	[ファン～オルタネータ]		
		kgとNの両方で表記		10kg(98N)		
走行性能	最高速度	ゴム	sec			
		鉄		11.99～13.19		
	[測定方法・条件]		[5m助走後、20m]			
	履帯	ゴムベルト	張り(たわみ量)	mm	設定無し	
			[測定方法・条件 (図面番号表示)]			
走行装置	(クローラベルト)	鉄シュー	張り(たわみ量)	mm	270	
			[測定方法・条件 (図面番号表示)]		[図-6]	
		リンクピッチの伸び	mm	175		
		[測定方法・条件 (図面番号表示)]		[1リンク]		
履板取付けボルト締付けトルク			N・m	412		
		[測定方法・条件 (図面番号表示)]	kg・m	42		

加藤製作所

令和4年度（公社）建設荷役車両安全技術協会

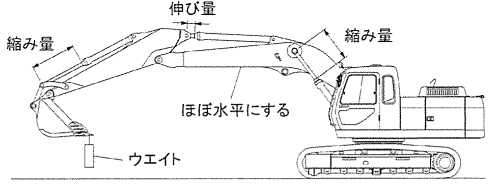
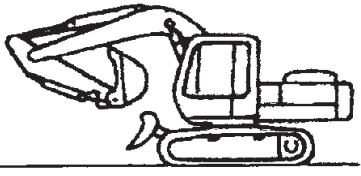
適用範囲		モデル名		HD514MRLC-7		
		仕様				
		適用号機		5102～		
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値		
作業装置	作業機自然降下	バケット先端位置	mm			
		(測定時間)	(分)	(5)		
		(作動油温)	(°C)	(50±10)		
		(図面番号表示)		[図-1]		
		荷重	kg	900		
			N			
作業装置	シリンダ自然伸縮 (自然沈下量)	ブームシリンダ	作業装置姿勢	mm	5	
				(図面番号表示)	[図-1]	
		アームシリンダ	作業装置姿勢	mm	10	
				(図面番号表示)	[図-1]	
		バケットシリンダ	作業装置姿勢	mm	25	
				(図面番号表示)	[図-1]	
		ブレードシリンダ	作業装置姿勢	mm	4	
				(図面番号表示)	[図-1]	
		(測定時間)	(作動油温)	min		
				(°C)		(50±10)
作業機速度	ブーム上げ	作業装置姿勢	sec	2.5～3.1		
			(図面番号表示)	[図-3]		
		アームシリンダ伸ばし(引き)	sec	2.7～3.3		
			縮め(押し)	sec	2.3～2.9	
		作業装置姿勢	sec			
			(図面番号表示)	[図-4]		
		バケットシリンダ伸ばし(掘削)	sec	2.1～2.7		
			縮め(放土)	sec	1.9～2.5	
		作業装置姿勢	(図面番号表示)		[図-5]	
				(荷重・設定モード等)	[エンジン最高 Pモード]	
油圧装置	油圧回路設定圧力	主回路設定圧力	MPa	31.4/32.9		
			kg/cm <sup>2</sup>	320/335		
			(°C)	[エンジン最高 Pモード]		
			(min <sup>-1</sup> )			
動力伝達装置	旋回ベアリング取付けボルトの締付け	アウトレース取付けボルトの締付けトルク	N・m	318		
			kg・m	32.5		
	インナレース取付けボルトの締付けトルク		N・m	318		
			kg・m	32.5		
	旋回減速機取付けボルトの締付け	油圧モータ取付けボルトの締付けトルク	N・m	103		
			kg・m	10.5		
		N・m	318			
		kg・m	32.5			
備考						

★印：新車基準値を表す。

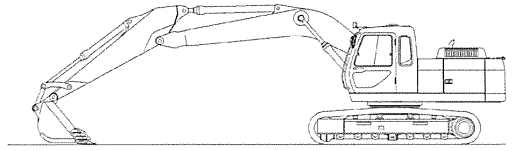
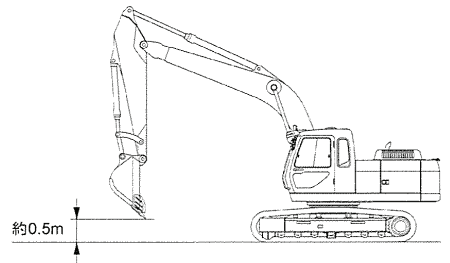
加藤製作所

令和4年度（公社）建設荷役車両安全技術協会

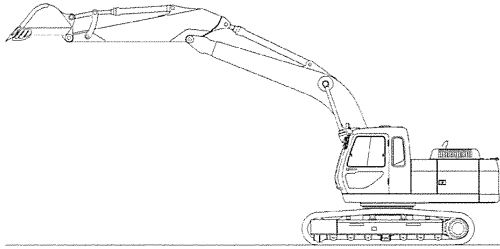
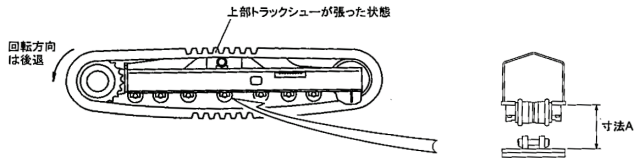
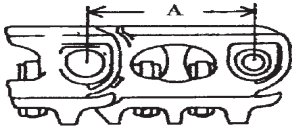
適用範囲		モデル名	HD514MRLC-7	
		仕様		
		適用号機	5102～	
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値
動力伝達装置	クレーン時の回転速度	3回転の所要時間	秒	20.4以上

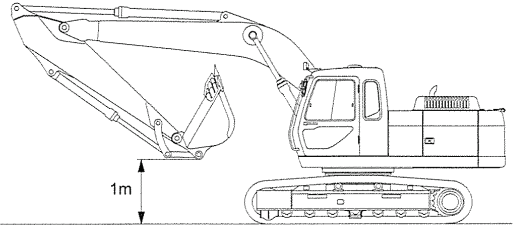
項目	測定方法
作業機トータル 又は ブームシリンダ	<p>(図No.1)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロント姿勢 ブーム下面: ほぼ水平 アームシリンダ: ストロークエンドから20 ~ 100伸ばす バケットシリンダ: ストロークエンドから20 ~ 100縮める</li> <li>・作動油50±10°C</li> <li>・エンジン停止</li> <li>・5分後、ブームシリンダ縮み量、アームシリンダ伸び量、バケットシリンダの縮み量を測定</li> </ul>
アームシリンダ	(図No.1)
バケットシリンダ	(図No.1)
ブレードシリンダ	<p>(図No.2)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロント姿勢 アームシリンダを最伸長にし、バケット歯先がブーム下面に接触しないようにバケットシリンダを伸長する</li> <li>・ドーザシリンダを最縮長時に、ドーザとバケットが接触しないようにブーム位置を調整する</li> <li>・作動油50±10°C</li> <li>・ドーザシリンダを最縮長</li> <li>・エンジン停止</li> <li>・5分後、ドーザシリンダの伸び量を測定</li> </ul>

作業機自然沈下量又はシリンダ自然伸縮量測定姿勢

項目	測定方法
ブーム上げ	<p>(図No.3)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロント姿勢 アームシリンダを最縮長、バケットシリンダを最伸長にし、バケットを地面に接地</li> <li>・作動油50±10°C</li> <li>・アクセルダイヤル: "👉"位置 (エンジン: 最高回転)</li> <li>・パワーモード: プロモード</li> <li>・オートスロー OFF</li> <li>・クッション部の時間は測定しない</li> </ul>
アームシリンダ 伸ばし及び縮め	<p>(図No.4)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・フロント姿勢 バケット: ダンプで、アームの中心を地面に対して垂直な状態を維持しつつ、バケット歯先と地面との間隔が約0.5mになるようにブームの位置を調整する</li> <li>・作動油50±10°C</li> <li>・アクセルダイヤル: "👉"位置 (エンジン: 最高回転)</li> <li>・パワーモード: プロモード</li> <li>・オートスロー OFF</li> <li>・クッション部の時間は測定しない</li> </ul>

作業機速度測定姿勢

加藤製作所 令和4年度（公社）建設荷役車両安全技術協会	
項目	測定方法
作業機速度測定姿勢	<p>(図No.5)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロント姿勢 アームシリンダ最縮長の状態で、地面に対して水平になるようにブームの位置を調整する</li> <li>・ 作動油50±10°C</li> <li>・ アクセルダイヤル: " "位置 (エンジン: 最高回転)</li> <li>・ パワーモード: プロモード</li> <li>・ オートスロー OFF</li> </ul>
ゴム履帯の張り (たわみ量) 測定方法	
鉄製履帯の張り (たわみ量) 測定方法	<p>(図No.6)</p> <p>トラックシューの張り調整は、片足ずつジャッキアップし、下図のように上げた方のシューを少し回転させてから、シューのたるみ量を測定します。</p> <p>トラックリンクの回転方法は後進で行い、上部のトラックシューが張った状態で測定します。</p> 
鉄製履帯のリンクピッチ 測定方法	<p>(図No.7)</p> 

加藤製作所 令和4年度（公社）建設荷役車両安全技術協会	
項目	測定方法
クレーンモード選択時	<p>(図No.8)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロント姿勢 アームシリンダ、バケットシリンダとも最伸長にし、バケットが地面から1mの位置</li> <li>・ 水平堅土上</li> <li>・ 作動油50±10°C</li> <li>・ アクセルダイヤル: " "位置 (エンジン: 最高回転)</li> <li>・ 等速旋回後から3回転所要時間</li> </ul> <p>【注意】上記基準値は参考値となります。基準値公差は設けておりません。</p>